

## 京（大野恵造）

解説 京都の風景を描いた詩。

水<sup>みず</sup> 潺々<sup>せんせん</sup>として 染色<sup>せんしよく</sup>の 座<sup>ざ</sup>に 戯<sup>たむむ</sup>る

三条<sup>さんじよう</sup> 大橋<sup>おおはし</sup> 秋晴<sup>あきは</sup>れの 欄干<sup>おぼしま</sup>は 長<sup>なが</sup>し

京<sup>きよう</sup>の 貴人<sup>あてびと</sup> 装<sup>よそお</sup>いて 渡<sup>わた</sup>る

鐘<sup>かね</sup> 殷々<sup>いんいん</sup>として 楼閣<sup>ろうかく</sup>の 朝<sup>あした</sup>を 招<sup>まね</sup>き

常塔<sup>じようとう</sup>の 夕<sup>ゆうべ</sup>を 呼<sup>よ</sup>ぶ 東山<sup>ひがしやま</sup> 三十六峰<sup>さんじゆうろっぼう</sup>

既<sup>すで</sup>に 錦繡<sup>きんしゆう</sup>の 彩<sup>いろど</sup>りは あり

語釈 ※潺々Ⅱ浅い水が淀みなく流れるさま。また、その音を表わす。さらさら。※染色Ⅱ染料を用いて物に色素を浸透、定着させる。また、生地を染色した後には、表面に余分な染料が残留しているもので、これを放置すると、洗濯したときに余分な染料が流れ出し、他の衣類に色移りすることがある。※三条大橋Ⅱ、京都市にある三条通の橋。※欄干Ⅱらんかん。※貴人Ⅱ家柄や身分、地位の高い人。※殷々Ⅱ大きな音が鳴り響くさま。※楼閣Ⅱ高層のりっぱな建物。たかどの。※東山三十六峰Ⅱ京都市の東には東山という山が聳えている。この呼び名は中国の嵩山が嵩山三十六峰と呼ばれることから、それを真似て名付けられたと伝えられている。実際に東山には三十六の峰が存在しています。※錦繡Ⅱ美しい紅葉や花のたとえ。

通釈 京都の川の水は淀みなく流れ、染色後の残留色を洗い流す作業風景が見られる。秋晴れの三条大橋の欄干の長さと美しさ。京に住む貴人が装いながらその橋を渡る。そこに響き渡る楼閣からの鐘の音は朝を招き、常塔から夕方の東山三十六峰を眺めると、既に紅葉の彩りが映し出されている。